

40年間闇に葬られていた UFOを捕まえちゃった中学生の凄い話 プレゼンター：ビビる大木

取材対象者：日本のUFO事件を研究し続けて40年！UFO研究者の林和男さん

日本のUFO事件の中でも、一番衝撃的な事件として語り継がれている事件であります。
さあ、何が衝撃的なのか、それがこちら！

「中学生 UFO捕まえる」

さあ皆さん、中学生数名がUFO見ただけではなく、捕まえたんです。
ただみなさん、UFO捕まえたって話聞いた事ないですよ。
無いんですよ、誰かそういうこと言ってるんだろう。
ウソだろうみたいなこと思ってるだろうと思いますけど、そこらのUFO話と次元が違います。
皆さん良いですか？今回、取材をさせてもらった林さんという方、
当時取材で中学生に別々に話を何度も何度も聞きました。
しかし、どれもつじつまが合う。
聞けば聞くほど、話を合わせて嘘をついているようには思えない。
そう思ったんです。
当然この林さんも嘘だろうという前提で話を聞きに行ったんです。
で、何回聞いても話が合う。
おかしいところがない。
何だこれとは思ったんでしょうね。
でこの事件はある理由で40年以上、闇に葬られてしまうんです。
今回この番組の取材により、なんと40年ぶりにある真実が明らかになったんです。
ちなみにその時、少年たちが捕まえたというUFOは一体どんなものだったのか、こちらです。

(大木が用意したUFOのレプリカを披露)

さあ皆さん、当然これはレプリカです。当然ね
皆さんUFO捕まえたことない訳ですから、この形、このサイズがウソだと疑うことはできない
ですよ。みんな捕まえたことないんですよ、そういう事ですよ。
では、中学生がどのようにして.....あつ！ちょっと待ってください、その前に！
レプリカの説明を... (笑)
中学生たちの話をちゃんと聞いて先ほど話を聞いた林さんが再現、複製したものでございます。
決してテキトーに作ったものではないです。

では、その中学生たちがどのようにしてU F Oを捕まえたのか順を追って説明していきます。
時は 1972 年 8 月 25 日。

中学生は田んぼの上をふわふわ飛び回る物体を発見します。

何だろうあれは、リーダー格であった一人の男性が近づき手を伸ばそうとした瞬間、その物体が突然、青白い色に変化したそうです。

当然みんな、初めて見るその物体。これは、いったいなんだろう、何者なんだろう。何だろうという恐怖でみんな逃げ出しました。

当然ですよ、見たことなんですから。1972 年の話です。

しかし数日後、気になってみんなでもう一度田んぼに行ってみました。

するとなんとそこには、数日前に見た物体と同じ物体が落ちていたんです。田んぼに！そして、そのリーダー格の一人が勇気を出してU F Oを捕まえたんです。

「コレこの間のあれだよな」なんだろうという事で持って帰るわけです。

みんな信じられませんよね。ですからこれが人類初、U F O捕獲の瞬間の事件なんです。それがたまたま中学生だったってだけです。

当然世界でも、後にも先にも例がございません。

そしてみなさん

この中学生たちU F Oを捕まえただけではありませんでした。
こちら！

「中学生田んぼのU F Oを家に持ち帰る」

当然、U F Oを田んぼで見つけて持ち上げたら、

どうするか「持って帰ろうか」ってなるわけです。

コレ何者かわかりませんから、まだ少年たちはこれが何なのか？U F Oなのか、なんなのかわかんない状態で持って帰るんです。

皆さんこれ結構勇気のいることだとは思いませんか？

見たことがない、数日前、自分の目の前の高さを浮いていたアレがここに落ちていて触って持ち帰る。怖いですよ。

リーダー格で会った少年が田んぼから近かったということもあり、リーダー格の少年の家に持って帰ったそうです。

ちなみにそのU F Oの写真が一枚だけ残っています。こちら！

(写真が出る)

まあ、わかりますかね。当時 1972 年に撮った一枚です。

わかりますか？みなさん。

そこですね。

ぼんやり光っている光がありますね。アレが田んぼにぼんやり落ちているときの写真です。

これみなさんね、何でこれしかないんだって思いますよね。

そんなわけないだろうと、すぐ写真撮るだろうと...

時は 1972 年当然携帯電話もスマホも持ってません。

カメラも一家に一台お父さんが持っている時代です。自分のカメラなんか当然持ってません。

ただ証拠となる写真がこれしかない。

しかも当然みんなは何回かとったそうです。写真をしかしシャッターが下りないとか、

撮ったはずなのにフィルムが黒いとか、結局残ったのはこれ一枚という事だそうです。

だからそういう不思議な現象があった結果の一枚です。

そして中学生たちは謎の物体を自宅に持ち帰った後、一体どうしたのか。

彼らはいろんな実験を始めました。こちら！

「中学生、UFOをカナヅチでたたく」

何とそのリーダー格の少年、この端っこの比較的薄いであろうという部分をトンカチで叩いたそうです。なんども

しかしみなさん不思議なことに一切、壊れることもなく傷がつくこともなかったそうです。

だからみんな余計にいったいこれはなんなんだとなったんです。

さらにコンロ、家のコンロで火であぶってみたりとか、中学生なりに知恵を振り絞ってやってみるんですよ。熱さに弱いんじゃないとか、あるいはこの薄い所をペンチで曲げてみようとか、でもそのペンチでも曲がんなかったそうです。

いくら力入れても、だから彼らはこれが一体何なのか、何でできているのか？

鉄のような鉄じゃないような、曲がりもしない、傷もつかない。

これなんだろうなってなるわけです。

そしてさらにこれをひっくり返してみました。

裏っかわちょうどこうなっているんですね。わかりますか？

何やらこういう模様があったり、真ん中に何やらいくつ穴が開いている。

中学生だった彼らは当然こうして水を入れてみます。

普通の成り行きですよ。そしたら何やら、

中から音が「ジジジ」という機械音みたいなものが聞こえたようです。

当然入る量はこれしかないですから水がすぐにあふれてくるわけですが、

かすかに中が光ったっていう訳ですね。

しかし彼らはこれが何かわかんないですから、水入れても何も変化もないかとなるわけですけど

なんかこの中学生が取った行動が凄く皆さん、リアルだと思いませんか？

水を入れてみようと、ペンチで曲げてみようとトンカチで殴ってみようととにかく家にあるものでとにかく痛みをとか危害を加えてみようとかしたんですけど、何も無い。んん～ってなるわけですよ。さらにこの中学生こんなこともやっています。

「中学生UFOをタンスにしまう」

皆さん当然、何日も日がたつわけですから、この取ってきたUFO、家のどこにしまおうかってことになるんですよ。

何か、出しっぱなしにするわけにもいかないってことで大切なものなのでタンスかなっていったタンスにしまうんですよ。

で、タンスにしまいました。

しばらくしてタンスを開けてみるとUFOが消えている。

アレ、だれもタンスを開けていない。

何なんだと、じゃあこのままUFOはなくなってしまったのかと、

消えてしまったのかと言いますと、みんなでもう一回あのUFOを拾った田んぼに行ってみよう。で行ってみたんです。

そしたら田んぼにあるんです。これなんだろうってなるわけです。当然。

みんな少年たちは、なんとその後、何度も家に持って帰ってもまた消える。

探しに行く、田んぼにある。これが何回もあったそうです。

何とこれが一ヶ月近く続いたそうです。この物体とのやり取りがなくなる度に田んぼにあったそうです。

コレは何人も体験しています。

さあそして、UFOと少年たちのお別れは突然やってきます。

ある日中学生の一人がUFOをビニールに入れましてその袋を自分の腕に針金で巻きつけました。

今まで何回も消えてましたんで、今回は消さないぞ、という事で

ぐるぐる巻きにして出かけたそうです。そして自転車で運びました。

そうするとですね。なんと腕のUFOが暴れ出しまして、力によってバツと持ってかれたそうです。

わっとなって気づいた時には、もうUFOがいなかったようです。

コレ不思議ですよ皆さん。

その時自転車は3人で連なっていたそうです。

そしてUFOを乗せた自転車は2台目ですから、後ろにいた3人目の人はUFOをつけている人間を後ろから見ているわけです。

その瞬間、自転車が何かの反動でバツとなって「あいつどうしたんだ？」って思ったそうです。

しかしその瞬間にはいなかったという事で本人達も何でいなくなったのかわかんない

ただビニール袋はある。

針金もある。

UFOのような物体だけ無くなったそうです。

そしてそれ以来田んぼに現れることもなく。U F Oが少年たちの前から消えました。
その後当然中学生たちはこの話を大人たちに話し始めます。
しかしこんな話を地元の大人たちは誰も信じてくれません。
誰が信じてくれるのかな？

彼らはですね。そこで彼らはラジオの電話相談コーナーに出演します。
とにかく自分たちの話を信じてほしい。
とにかく自分たちの体験したこと。一カ月間見たことやってしまった事、とにかく信じてほしい。
ラジオの電話相談コーナーに出演します。
そこでU F O捕まえました。と告白したところ、全国からマスコミが殺到しました。
そして彼らは一躍時の人となりました。

そして最初に申しあげました通り、じゃあこの事件はなぜ、闇に葬られてしまったのか？
一体何があったのか？
それがこちらです！

「中学生世間からバッシングを受ける」

当然世間から猛烈なバッシングが来ました。
ウソをつくんじゃない。
U F Oなんているわけないだろう、単なる出たがりな中学生だろう。これが全国からです。
まだインターネットもない、携帯電話もない時代に全国から来るんです。
これには彼らも参ってしまいます。
彼らは 10 代半ばという事もあり、マスコミのウソだろウソだろという攻勢を
なかなか受け止めることもできない。
なかなかそうすると口も重くなってくる。何言っても許してもらえない。
そして目撃者である中学生の一人が耐えられずマスコミにこういつてしまいます。

「あの話は全部ウソです。僕たちの作り話でした」

そう、あの話はウソでしたと言ってしまうんです。
この証言が決定打となり世間からは「やっぱりウソだったのかあいつらは」ということで
この事件は闇に葬られ、熱が冷めていったという訳なんです。
やがてこの事件は世間から忘れられてしまい、
中学生たちは沈黙を守ったまま 40 年以上の月日が流れました。

さてみなさんこの事件どう思いますか？
本当に嘘なんだろうか？

40年前、この事件を追っていた林さん、どうしても彼らが嘘をついているとは思えなかったそうです。ウソだとしたら、なぜあんな全員が全員話を合わせる事無く、話が合うんだとこの林さん、当然この40年と言う間にですね現場取材13回、関係者への電話の取材50回以上それだけ取材した結果、どうも嘘がないという判断にたどり着きました。ですから僕もこれは嘘ではないんじゃないかと思ってます。

そこで僕が今回その真相が知りたくて当時UFOを捕獲したという中学生たちに接触を試みました。

するととんでもない事実が明らかになりました。

それではこちらをご覧ください。

【VTR】

ナレーション>40年前の真実を確かめるためにスタッフはUFO事件が起こったという現場に向かった。早速当時中学生だったという、事件の当事者の一人に直接取材を行うと

スタッフ>すみません東京のフジテレビの者なんですけど
ちょっと取材してまして...ちょっとお話伺ってもよろしいですか？

当事者Aさん>そういうお話ですか？

スタッフ>実は40年前のUFO事件について調べてるんですけど

ナレーション>スタッフがUFO事件の話を口にした途端、男は口を閉ざし表情が一変した。
そして...

スタッフ>ちょっとどこかでゆっくりお話聞かせてもらってもよろしいですか？

当事者Aさん>今、忙しいんです。

スタッフ>10分だけいいですか？

当事者Aさん>本当に時間ないんです。

ナレーション>突然、時間がないという理由で取材を拒否。それでも質問を続けてみると

スタッフ>皆さんが、何があったかわかんないですけど取材に答えてくれないんですよね。

当事者Aさん>みんなそうですよ、

スタッフ>なんでなんですか？

当事者Aさん>わかりません。

スタッフ>やっぱりその当時、

当事者Aさん>すみません時間ないです。

スタッフ>ウソだウソだって言われて皆さん気づいてると思うんですけど、実際UFOは捕まえたんですよね？

当事者Aさん>もうやめときましょ

スタッフ>それだけ教えてください！お願いします！それだけ教えてください！

当事者Aさん>もうここで終わりです。
もう時間ないです。ありがとうございました。

スタッフ>本当だったんですよね？本当だと思うんですよね、私

当事者Aさん>そうですか。すみませんね

ナレーション>彼は最後まで事件のことを語ろうとしなかったが明らかに何かを隠しているようだった。UFO事件で彼らに何があったのか？

我々はその後も目撃者である二人に接触を図ったが頑なに取材を拒否、話しすらさせてもらうことが出来なかった。

そしてスタッフは最後に当時のリーダー格だったという男性の元へ

スタッフ>UFOについて色々取材してまして
その話だけでも聞かせてもらうことはできませんか？今 10 分間だけ

ナレーション>交渉すること 15 分
この事件で取材に答えるのはこれが最後という事で話を伺うことが出来た。

スタッフ>我々色々取材をしてきたんですけど皆さん言いたくないっておっしゃっていて
それがなんでなんだろうって、

当事者Bさん>結局はずーッと何十回、何百回と同じことを、いまさら何をいまさら同じことをきっちり言わなきゃいけない

スタッフ>まわりからやっぱりウソだったんじゃないかって言われたことはありますか？

当事者Bさん>それは聞かんでもええやん (聞き取れませんでした)

ナレーション>そう話すと彼は最後に事件の真実を語ってくれた

スタッフ>UFOの話は本当だったんですか？

当事者Bさん>あったのは間違いないわね

本当に実際に会った話、誰に聞いても言わんという事は実際にあった事

(VTR終わり)

どうですかみなさん...

この話、凄くないですか？